

～外来魚による漁業被害の軽減に向けて～（令和5年4月改訂）

外来魚の駆除は、その効果を検証しながら進めることが重要です。

駆除活動の計画づくり、効果的な駆除方法を検討するため、捕獲結果を記録しましょう。

計画の策定にあたっては、全内漁連と連携し、また関係する水産試験場等と相談して必要な助言等を受け、活動結果についても水産試験場等と情報共有しながら、駆除方法を見直すなど次期計画の策定等に反映させ、漁業被害の軽減につなげましょう。

全内漁連では、駆除活動の記録および活動計画・実績報告様式を作成していますので活用ください。

○記録の取り方

◇産卵床

産卵床を保護している雄親魚の駆除数、または卵を除去した産卵床や破壊した産卵床の数を記録する。

◇仔稚魚～成魚

駆除結果を魚種別に、尾数、重量について数量をそれぞれ記録する。

- ・ オオクチバス及びコクチバスは、発育段階ごと（仔稚魚、未成魚、成魚）に区分するが、ブルーギルは区分しなくてもよい（詳細は様式を参照のこと）。
- ・ 大量に捕獲したときは、発育段階に区分がある魚種は区分ごとに総重量を実測し、別途算出した平均体重から推定尾数（総重量／平均体重）を算出して、総重量と総尾数を記録する。
- ・ 平均体重の算出法は、捕獲した魚の一部（60尾程度）を取り出し、その重さを量り、そこに含まれる尾数で割ったものとする（捕獲した魚の一部を取り出すときは、魚の大きさやそれぞれの数に注意し、全体の平均が算出できるよう注意する）。
- ・ アメリカナマズ等は、「混獲魚等」として「その他」の欄に記録する。

記録様式等は [コチラ](#) [外来魚の駆除活動計画・実績報告様式等](#)

様式1：日誌形式になっているが、水域ごとの1回の駆除活動を記録する。 →全内漁連への提出は不要

様式2：様式1に記録された数値を1年分合計して、水域または漁協等の駆除実績とする。（縦型と横型がありますが使いやすいものを利用してください） →全内漁連への提出は不要

- ・ 尾数、重量を、魚種別・発育段階別にそれぞれ合計する。
- ・ 「人・日」は、様式1の「漁獲努力量」の合計とし、魚種別・発育段階別にそれぞれ合計する。
- ・ 捕獲方法は、実施した方法を全て列挙する。
- ・ 主な実施月は、主として活動した月（例、5月または4～6月、など）を記入する。

様式3：計画・実績報告書について、項目に沿って記入またはプルダウンメニューから選択して記入する。 →漁連が作成し、全内漁連に提出する（補助事業を実施している漁連は必須）

外来魚4種の見分け方は [コチラ](#) [外来魚4種の見分け方](#)